西覚寺だより

第２０号

春季彼岸会のご案内

● 日にち　三月十八日（土）

● 時間　午後一時半　～　三時頃

● 内容
・お勤め（正信偈作法）
・ご法話

※春季彼岸会は、午前の座はありません。
午後のみです。ご注意ください。

※感染症対策のため「お斎」はありません。

● 布教使　梅山　暁　師（三重県・若手）

今年の春季彼岸会は、落語はおやすみです。その代わりではありませんが、梅山さんには、『節談説教』をして頂きます。西覚寺では、きっと初めてのことです。貴重なご縁ですので、どうぞ皆様、お参りに来てください。

● 持ち物　不織布マスク着用の上、御参拝下さい

お念珠、門徒式章（お持ちの方）、御仏前（受付にお渡し下さい）

引き続き、感染症対策を講じて勤修致します。換気もしますので、みなさま必ず暖かい服を着て御参拝下さい。

『節談説教』ってなあに？

今年の春季彼岸会では、『節談説教』をして頂きますが、みなさま耳慣れない言葉と思いますし、初めてのご縁かと思います。そこで、ここで簡単にご説明したいと思います。

（以下引用　参考　真宗大谷派　明順寺さまＨＰより）

『節談説教（ふしだんせっきょう）』とは、ことばに節（抑揚）をつけ、洗練された声とゼスチャーで演技的表出をとりながら聴衆の感覚に訴える詞的、劇的な「情念」の説教だといわれています。（以下略・引用以上）

普段のご法話は、講演会や学校の授業のように、話し手が一定の語り口でお話しされます。『節談説教』は、もちろん普通の語り口でお話をされる時間もありますが、肝心かなめの説教に、「節（抑揚）」が付き、聞き手の情念に訴えかけるよう工夫されたものです。そして、普段は話し手が立った状態でお話されることが多いですが、節談説教では話し手は「高座」に座ってお話しになられます。

中世・近世の頃は、この節談説教がとても流行していたようで、とても長い長い伝統のあるものです。残念ながら戦後になると敗戦による近代化への拍車がかかる中、教団としても講演形式の布教への傾斜が強まり、節談説教は下火となり、受け継ぐ人も減ってしまったようです。昭和後期になると、数少ない継承者の方々や、それに賛同する方々のちからによって再興され、今では浄土真宗内での宗派も超えて、節談説教への取り組みがすすめられているようです。

戦前の東海三県や滋賀県には、この節談説教の名だたる説教者の方々がひしめき合い、群雄割拠の状態であったそうで、この地域にとてもゆかりのあるお説教でもあります。

そんな節談説教をお聴聞できる貴重なご縁です。どうぞ皆様、お誘いあわせてお参りしてください。

参考　Ｗｉｋｉｐｅｄｉａ「節談説教」

親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年　記念法要

今年は私たち浄土真宗にとって、特別な節目の年です。
京都のご本山・本願寺では、親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年の記念法要が営まれています。本来であれば、全国の末寺からも団体で大勢参拝させて頂くところですが、依然としてコロナ禍ということもあり、それはかないません。
そこで、みなさまとともにこの節目の年をお迎えするために、西覚寺でもこの記念法要を勤修することにしました。

○日時	４月２５日（火）　午前１０時半～　・　午後１時半～
○場所	西覚寺本堂
○お勤め	正信念仏偈作法（特別に雅楽の生演奏も入ります）
○ご法話	井上見淳師（本願寺派司教・龍谷大学准教授）
○記念品	井上見淳先生が執筆された『歎異抄』についての本・紅白饅頭
○お斎	お斎（昼食のご用意）を再開します。お赤飯の予定です。

平日で申し訳ありませんが、
雅楽の演奏や記念品、お斎の再開など
特別な法要ですので、特別なご用意をしております。
万障お繰り合わせの上、
みなさま、ぜひともお参りください。

◆　住職の一言コーナー　◆

みなさま、本年２０２３年も、どうぞよろしくお願い致します。どうぞ、どうぞ、お寺の法要や行事に、たくさんお参りに来てください。

さて、お参りに回らせて頂く中で、たまにご質問頂く事があります。それは、お参りの際に私に渡す「封筒」について、です。色々な方がいらっしゃいますが、基本的なところを書かせてもらいます。

お年忌や命日のお勤め、その他の納骨やお仏壇のお勤めの際など、私がお経などお勤めさせて頂いた御礼としてお渡しくださる場合は、すべて、表に「お布施」と書かれた封筒（ご自分で書いても構いません）でお願いします。また、必ず表に「お名前（苗字だけでも構いません）」をお書きくださるようお願いします。

そして、お寺の法要や行事にお参りくださった際にご用意いただく封筒は、表に「御仏前」と書かれたもので、同じように表にお名前を書いて頂ければと思います。

浄土真宗本願寺派
西覚寺
安城市朝日町１２－８
☎０５６６－７６－３５９４
http://saikakuji.sakura.ne.jp/wp/